

吉賀中だより

令和8年3月23日
吉賀町立吉賀中学校
(文責：城市)

令和7年度 学校教育目標

「自他を大切にし、共に自らの可能性を広げる生徒の育成」

春分の日を過ぎ、晴れた日には小鳥たちのさえずりが聞こえてくるようになってきました。二十四節気の4番目にあたる春分（今年の春分の日は3月20日）を迎え、いよいよ春の訪れを感じます。

学校は明日が修了式。令和7年度が終わります。今年度も保護者の皆様、地域の皆様には、いつもご支援・ご協力を賜り本当にありがとうございました。お陰様で生徒は、この一年間無事に過ごすことができ一人一人が心身ともに大きく成長をすることができました。

生徒の皆さんは、25日から4月7日まで14日間の春休みに入ります。今年度一年間で自分が成長したところやできるようになったことを振り返ってみてください。そして、新年度新たな学年として更なる成長をめざし、課題点やうまくできていないことをどう克服したり力をつけたりしていくのか考え、進級に向けた準備を進めてください。

「富士山に登ろうと心に決めた人だけが富士山に登ったんです。散歩のついでに登った人はひとりもいませんよ。」

これは以前にも紹介したことがある漫画家、ジョージ秋山さんのマンガ「浮浪雲（はぐれぐも）」の一節です。良い準備があるからこそ、良い成果を得られます。準備をせずに結果や成果だけを追い求めるのは無茶な話です。進級・新年度に向け一人一人がいろいろと考えたりいろいろと準備をしたりしてみてください。一年後の素敵な自分の姿を想像するとききっとワクワクして来ると思えますよ。

たゆまざる 歩みおそろし かたつむり 北村西望

これも以前に紹介したことのある北村西望さん（長崎平和祈念像作者）の句です。どんなにゆっくりでも歩みを止めずに努力を続ければ、必ず大きな成果につながります。焦らず慌てず一歩一歩着実に前へ前へと歩みを続けてください。

卒業証書授与式（3月7日（土））挙行

卒業 おめでとう！

卒業証書授与式を3月7日（土）に挙行し、第76期卒業生11名が笑顔で巣立っていきました。今年度の卒業生は、生徒会スローガン「唯一無二」の元、運動会、文化祭等の大きな学校行事をはじめ、日々「当たり前の事を ばかにしないでちゃんとやる」という吉賀中ABCを、最上級生として全校生徒の先頭に立ち、本当に意欲的・主体的に実践し立派にやり遂げてくれました。卒業生の素晴らしさの全てを言い尽くすことはできませんが、様々な場面で常に笑顔を決やさず仲間を信頼し、いつも前向きに取り組んだ頑張りや功績を大いに讃えたいと思います。

卒業生との思い出を思い浮かべながら、式の最後に一緒に校歌を歌ったときには、別れの寂しさに思



わずこみ上げてくるものがありました。

当日ご臨席いただけなかった地域の皆さんも多かったと思いますので、「在校生送辞」「卒業生答辞」を以下に全文掲載いたします。

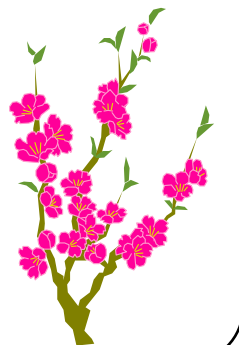


在校生送辞 在校生代表 さん

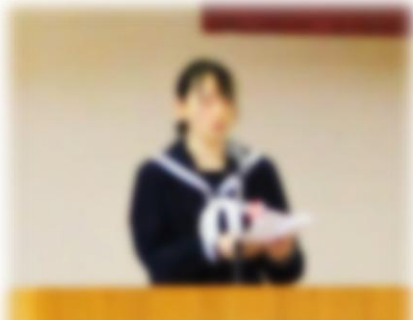


教室の窓から差し込む日差しにも、春の気配を感じるようになりました。吉賀中学校を卒業される11名の皆さん、保護者の皆様、今日は、ご卒業おめでとうございませす。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

今、卒業生の皆さんは、とても充実した三年間の中学校生活を思い出されていると思います。僕の心にも、先輩方と一緒に過ごした日々が、懐かしい思い出となって、浮かんでいきます。二年前の春、僕は不安と期待を胸に、吉賀中学校へ入学しました。学校生活について右も左もわからなかった僕に、先輩方は優しく声を掛けてくださいました。そのおかげで、不安もいつの間にかなくなり、とても心が軽くなったことを、今でも鮮明に覚えています。初めての委員会活動では、仕事内容を丁寧に教えてくださり、わからないことだらけだった僕たちに、三年生の皆さんはどんなときも、優しく寄り添って指導してくださいました。そしてリーダーとしてみんなをまとめている姿がとても頼もしかったです。県大会出場を目標に、一生懸命に打ち込んだ部活動の時間では、先輩方は僕の憧れの存在でした。練習では、互いに協力をしながら高め合えました。大会で成果を上げることが出来たときには、一緒に喜び合い、喜怒哀楽をともにした瞬間は、かけがえのない思い出です。学校行事では、どんな困難な壁にぶつかったときでも、三年生みんなで知恵を絞り合いながら、乗り越えていました。そんな三年生の姿がとても頼もしく、かっこよかったです。行事を終えるたびに、僕は三年生のような最上級生になりたいと思いました。明日から先輩方は、それぞれが目指す夢に向かって進まれます。決して、楽な道ばかりではないと思います。道に迷ったり、つまずいたりすることもあると思います。しかし、そんなときは、吉賀中学校で過ごした三年間を思い出してください。みんなで頑張ったこと、笑い合ったこと、励ましあったこと、たくさんの思い出が、皆さんの背中を押してくれるはずですよ。卒業生の皆さん、唯一無二のスローガンのもと、全校を引っばってください、ありがとうございました。これからは、私達在校生がこの吉賀中学校の素晴らしい伝統を引き継ぎ、さらに発展させ、よりよい学校になるように努力していきます。いよいよ、お別れの時となりました。卒業生のみなさんのご活躍を心よりお祈りして、在校生からの贈る言葉とさせていただきます。



卒業生答辞 卒業生代表 さん



暖かい日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日この良き日に私達11名はたくさんの思い出を胸に大好きな吉賀中学校を卒業します。多くの人に見守られ、このような卒業式を挙げていただきありがとうございます。卒業生一同、心より感謝申し上げます。

振り返れば、あの日から3年もの月日が経ちました。大きな期待と不安を胸に抱き、中学校生活の第一歩となった入学式。卒業式を迎えた今でも、昨日の事の様に思い出します。部活動をする事や、学校生活が楽しみで、大きなドキドキを感じていました。初めての文化祭は、分からないことだらけでたくさん戸惑いましたが、クラスの皆と協力して学年発表を成功させることができたあの時の達成感は今でも覚えています。

2年生では、後輩ができ、後輩たちの見本となれるように努力しました。12月には、生徒会選挙があり、立候補した私は生徒会長に当選しました。生徒会執行部としての最初の大きな出来事は、三送会の運営でした。初めてのことで分からないことばかりだったけれど、先生方や全校生徒の協力を得ながら、なんとか無事に成功させる事ができました。

そして3年生。生徒会長として、様々な学校行事を運営したり、全校生徒をまとめたりすることは、ものすごく大変なことでしたが、仲間たちや先生方といっしょに一つひとつ乗り越えていきました。

合同運動会。猛暑のなか、私達3年生がリーダーとしてみんなをまとめたり、ダンスや演舞を教えたりすることにとっても苦労しましたが、みんなで「心をひとつに」しながら「フルスマイル」な運動会にできたと思います。

文化祭では、執行部として全体のことを進めながら、自分たちの学年発表を両立させていくことは本当に大変で、毎日放課後は居残りして準備を進めなければなりませんでした。しかし、クラスの皆で一から台本をつくり、楽しみながら劇の準備を進めたこと。スローガン「今しかできない青春」を意識しながら、みんなで協力して「唯一無二」な文化祭をつくりあげたこと。大変だったけど、すべてがかけがえのない大切な思い出です。12月には生徒会長を後輩に引き継ぎ、肩の荷が降りたと同時に、もっとやりたかった思いもわきあがりました。

そしてむかえた受験。学級のみんなはライバルでもあり、一番身近な仲間でした。本当に大変な苦労や緊張がありましたが、その分、私たちの心や絆は強くなりました。中学校生活最後の一年は、時間の流れが本当に早く、先輩方の「三年間はあっという間」という言葉を実感しました。

大切な後輩たちへ。今日はこうして私たちを見送ってくれてありがとうございます。みんなの顔をみていると少し前の自分たちを思い出します。不安とわくわくが入り混じっていたあの頃を。さあ、これからは、みんながこの学校を作っていく番です。自分らしく、笑顔を忘れず、思いっきり青春してください。

1年生。あと少しで2年生ですね。後輩ができ、学校の中心として活躍する場面も増えていきます。不安もあるかもしれませんが、自分を信じて、一つ一つのことに真剣に取り組んでください。その積み重ねが、きっと大きな自信につながります。先輩としてしっかりふるまい、後輩たちの見本になってくださいね。

2年生。いよいよ3年生ですね。進路という大きな選択が待っています。悩んだり、迷ったり、苦しんだりすることもあると思いますが、努力を続けると、その先に必ず道が出るはずですよ。私達は離れていてもずっとみんなのことを応援しています。たまには私たちのことも思い出してくれるとうれしいです。みんなの毎日がキラキラ輝きますように・

先生方。いつも私達のことを一番に考えてくれ、悩んでいるときには、寄り添ってくれました。先生方の言葉に何度も救われ、憧れの進路に進んでいくことができます。時に厳しく、時に優しく、いつも温かく私たちのことを見守ってくださったこと、心から感謝しています。先生方に教えて頂いたことをこれからの進路で発揮していくことで恩返しをしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

唯一無二の11人の仲間たち。私たちは、3年間同じ教室で、同じ景色を見てきました。嬉しい日も、うまくいかない日も、いつもそこにはみんなの存在がありました。運動会で本気で踊ったり、走ったりしたこと。文化祭で何度も話し合いを重ねながら台本作りや準備を進めていったこと。修学旅行の計画を立て、実行したこと。東京を体験し、都会のスゴさに感動する一方で、吉賀町のよさに気付いたこと。夜遅くまで語り合ったこと。進路について悩み、不安になりながらも、お互いを励まし合ったこと。意見がぶつかることもあったけど、また笑い合えたこと。その一つ一つが、私達を強く結びつけてくれました。

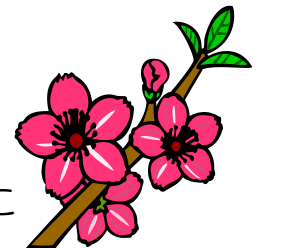
そんな日々も今日で終わってしまうけど、この三年間は、私達にとって一生の宝物です。私たちの絆。温かい時間と思い出。絶対に忘れることはありません。離れていても、私達はずっと仲間。それぞれの道で、胸を張って頑張っていこうね。私は、いつまでもみんなのことが大好きです。

そして、どうしても感謝の気持ちを伝えたい人たちがいます。それは、家族です。特別なことがあるわけではない「当たり前の日々」。そんな当たり前の毎日を支えてくれているのが「家族」だということ。その「当たり前」が私達を支えてくれているということ。義務教育の卒業という節目を迎えた今、私達はそのことに気づきました。うまくいった日も、うまくいかなかった日も、家族はいつも通りでした。その「いつも通り」にどれほど救われたことか・・・。私は何度もそんな家族に反抗し、ひどい言葉をぶつけたこともあります。それでも家族は、変わらず私を信じてくれました。願いが叶い、家族を喜ばせることができたことが本当に嬉しく、あの瞬間は今でも忘れることができません。今日私たちがここにいるのは、帰る場所があるからです。いつも、帰る場所をつくってくれていることに心から感謝しています。

本当にありがとう。これからも迷うことはあると思いますが、家族のみんなが信じてくれたように、私が私自身を信じてがんばっていこうと思います。お父さん、お母さん。あなたたちの子どもでよかった。

「桜梅桃李」桜・梅・桃・李がそれぞれ独自のきれいな花を咲かせるという意味が込められています。私達はこれから、それぞれ別々の道を歩み始めます。時には他人と比べ、立ち止まってしまうこともあるかもしれませんが、私たちは皆、唯一無二の個性を持っています。桜は桜として、梅は梅として。

先生方、仲間たち、そして支えてくれた家族へ。未熟な私達を、最後まで信じてくださり、本当にありがとうございました。卒業とは、別れでもあり、新しい出会いの始まりでもあります。誰かの代わりではない、自分にしか咲かせられない大輪の花を、これからの人生で咲かせていくことをここに誓い、答辞の言葉といたします。



卒業生が選曲した、SG（エスジー）の♪「僕らまた」を全校生徒で精一杯歌い上げ、11人の卒業生は笑顔で巣立っていきました。

キヌヤまでの歩道の草取り活動

3月11日（水）に生徒会が中心となり企画した「結プロジェクト」を行いました。今回は1・2年生全員で学校入り口からキヌヤ七日市店までの歩道の草・ゴミ取りを行いました。吉賀高校の2年生も一緒に活動をしてくださり、社会福祉協議会からもお手伝いにお越しく下さいました。ありがとうございました。できる範囲は限られていましたが、みんなで協力して行くとあっという間に時間が過ぎ、歩道は随分綺麗になりました（付近を通行された方、お気づきになりましたでしょうか？）。中高生と一緒に活動することで相互に好影響もありましたし、私は県外から吉賀高校に来ている生徒さんとのお話も弾み、楽しく活動をすることができました。午後2時46分に全員で東日本大震災被災者への黙禱を行い、今回の活動を終えましたが、短時間にもかかわらず予想以上にたくさんの草やゴミが集まりとても驚きました。今後も「結プロジェクト」として様々な形での地域貢献を進めていきたいと考えています。

